

演題番号3-1



回復期リハビリテーション病院における 意識障害・摂食嚥下障害に対するアプローチ

医療法人社団葵会 AOI七沢リハビリテーション病院

栄養科¹⁾、検査科²⁾、リハビリテーション部³⁾、脳神経外科⁴⁾

小野まゆみ¹⁾、井上優希²⁾、柏木孝則³⁾、磯谷栄二⁴⁾



日本臨床栄養代謝学会 利益相反開示

筆頭演者名： 小野 まゆみ

本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。



【目的】

急性期から回復期へ転院される際、脱水患者の割合が高い傾向にある。中でも経腸栄養管理下の患者に脱水傾向である場合が多く、3割以上で入院時の血清浸透圧が290mOsm/kgを越えている。

当院では意識障害・摂食嚥下障害に対するアプローチとして、水分摂取量を十分に確保することから始める。

今回は総提供水分量別に3食経口摂取移行率およびFunctional Independence Measure（以下FIM）改善度の平均を検討した。



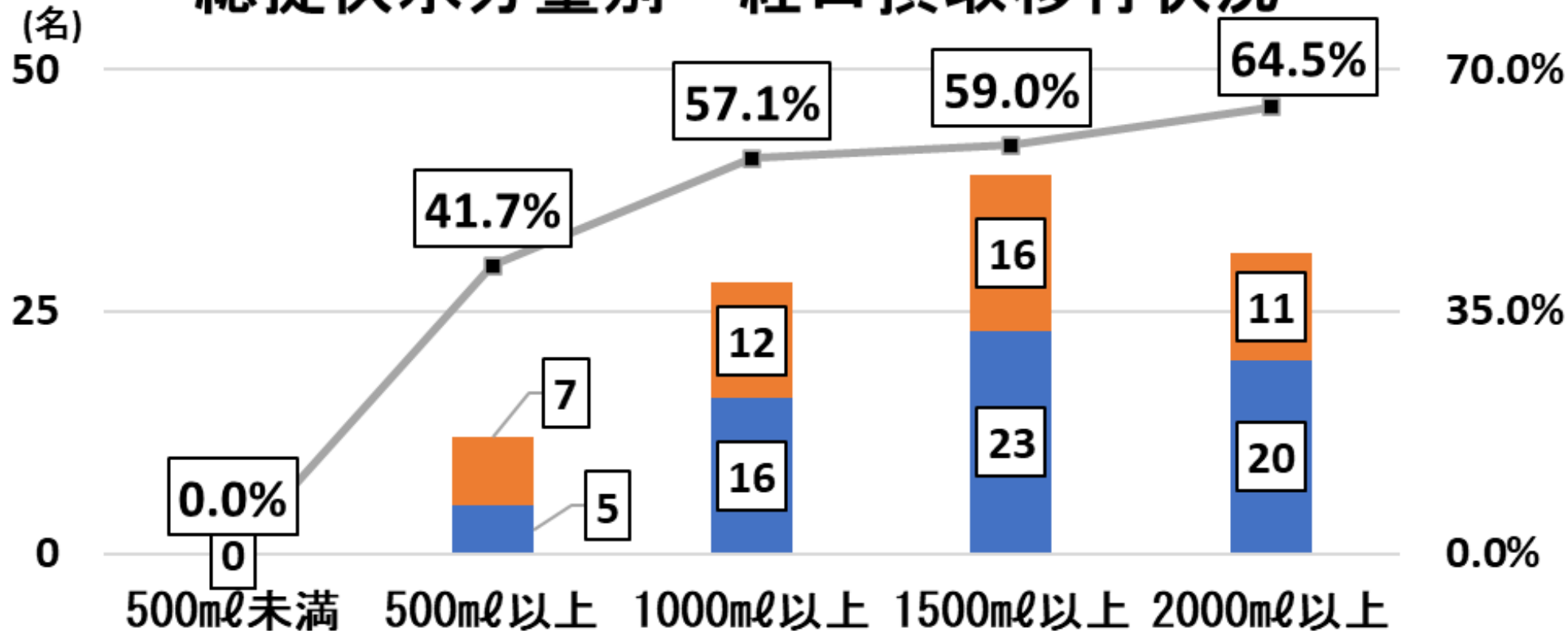
【方法】

2019年4月1日～2020年12月31日までに退院した経腸栄養患者110例を対象とし、経口摂取移行群64例と非経口摂取移行群46例の総提供水分量別の3食経口摂取移行率およびFIM改善度の平均を検討した。



結果 1

総提供水分量別 経口摂取移行状況



■ B非経口摂取移行者数 (名)

■ A経口移行者数 (名)

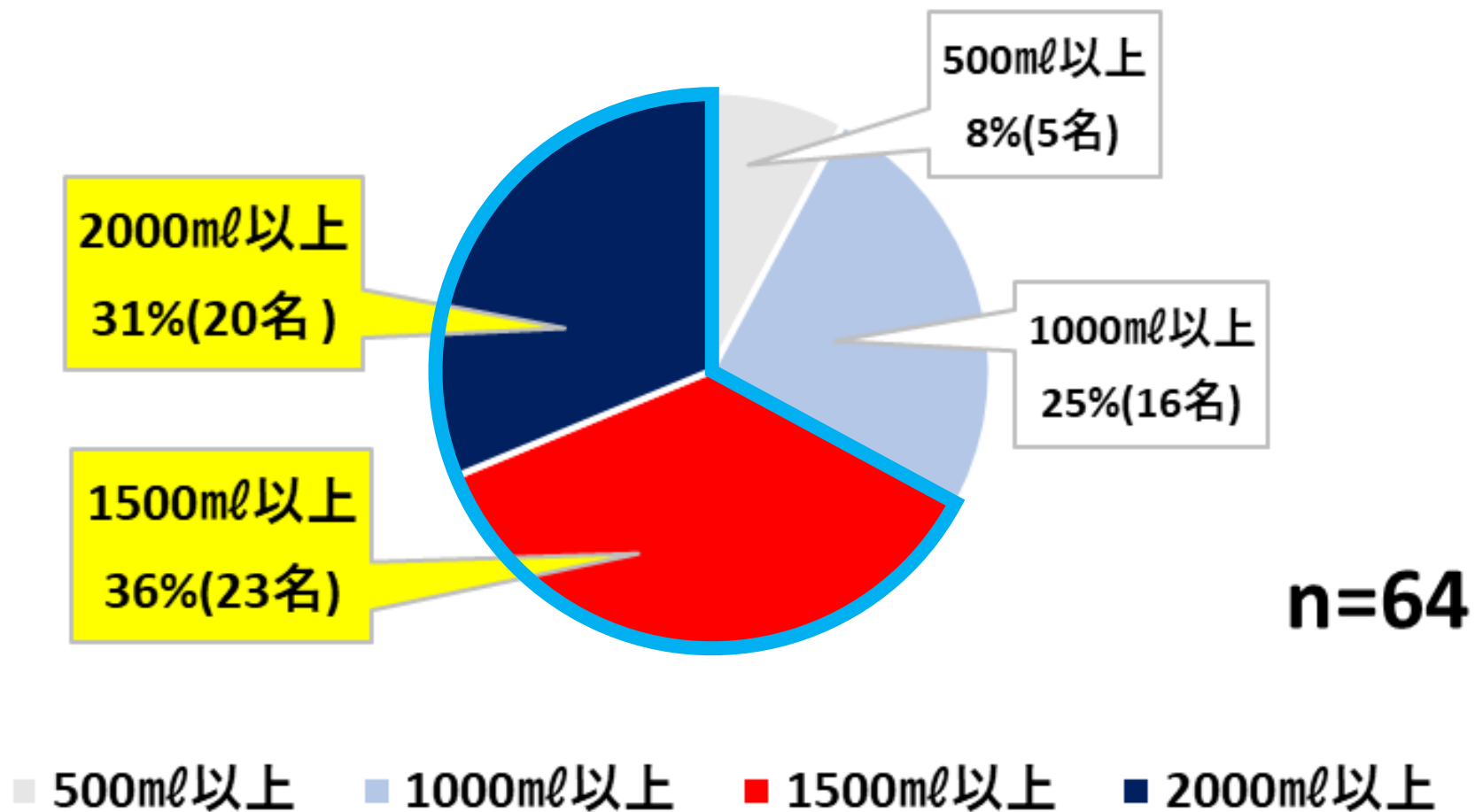
■ 総提供水分量別経口摂取移行率 % : $A \div (A+B)$

n=110



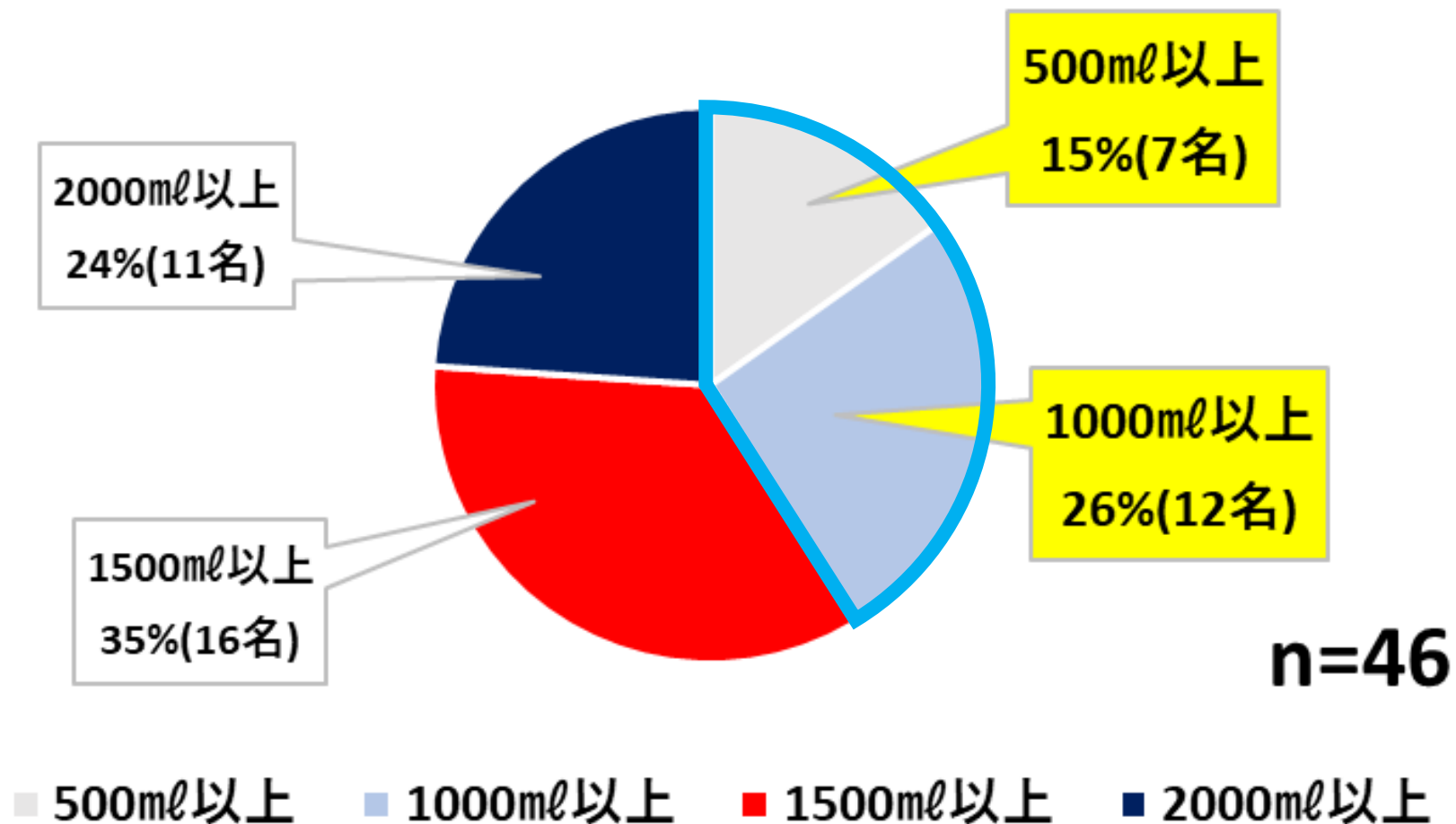
結果 2

経口摂取移行者群64例 総提供水分量内訳



結果 3

非経口摂取移行群46例 総提供水分量内訳



結果 4

経口摂取移行群と非経口摂取移行群 FIM改善度平均（点）の比較



【考察 1】

1日1500ml以上の水分摂取



経口摂取移行率の上昇



FIMが改善



【考察2】

～当院における経口摂取クリニカルパス～

ステップ①

A 1日8時間以上の**離床**

B Bed up45° 以上

C 1日**1500ml**以上の水分摂取

D 昼のみ経口摂取

E 咀嚼訓練の実施

ステップ②

F 3食経口摂取

G 歩行練習等
訓練内容の強化

ステップ③

H 転帰を考慮した
訓練



【結語】

総提供水分量別に経口摂取移行状況を検討した結果、
1日あたり1500ml以上を目標とした積極的な水分摂取
が望ましいといえる。また、経口摂取が可能となると
FIM改善度の平均が高くなる。



ご清聴ありがとうございました

